科目名			担当教員	
老年心理学 A			吉川　悠貴	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FD2544	2	1	RorSR (講義)	1 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目ですが、2017 年度以前入学者で「老年心理学」（科目コード：FD2517、4 単位）を単位修得していない方は、この科目を履修登録できます。単位修得済の方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、対人関係、死の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。

スクーリングでは、最新の統計資料等も用いながら、上記の内容を具体的に考えていきます。

レポート学習では、知識としての基本事項を確認した上で、実生活に即して理解します。

■到達目標

１）高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。

２）高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。

３）言語習得や感情理論、感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を、加齢との関係を含めて理解する。

４）高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】

加藤伸司編『介護福祉士養成テキストブック 10　発達と老化の理解』ミネルヴァ書房、2010 年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は、参考程度に使用します。

【参考図書】

１）内田伸子編著『誕生から死までのウェルビーイング　老いと死から人間の発達を考える』金子書房、2006 年

２）松田修編著『最新老年心理学』ワールドプランニング、2018 年
３）佐藤眞一・権藤恭之編著『よくわかる高齢者心理学』ミネルヴァ書房、2016 年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	加齢の考え方と高齢期の捉え方	加齢と高齢期を捉えるための諸概念と現状
2	加齢と身体的変化	加齢に伴って生じる身体やその機能の変化と心理
3	情報処理機能の変化	加齢と感覚・知覚・認知諸機能の変化
4	記憶機能とその変化	加齢と記憶機能の変化
5	知能とその変化	加齢と知能、言語機能等の変化と研究方法
6	高齢期における適応Ⅰ	高齢期の適応と生涯発達及び環境変化等の影響要因
7	高齢期における適応Ⅱ	高齢期の適応とパーソナリティ
8	人生の最終段階	高齢期と死の問題及び現代的課題
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます（教科書・配付資料持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5〜10 時間）

教科書は参考程度に使用しますが、教科書の第 1 章の概要を把握しておくとよいでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、高齢期の捉え方や高齢者の心理について、各自事前に考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人間の成長と発達① 発達のさまざまな理論（第 1 章）	「発達」とは何か、どのようにとらえられるものかについて学ぶ。また人間の発達を理解するための基礎的な理論にはどのようなものがあるかを理解する。 キーワード：発達、相互作用説、生涯発達心理学、発達段階、発達課題	とかく誕生から成人までの時期がイメージされやすい「発達」という概念について、「生涯発達」という視点を踏まえて基本的なとらえ方や基礎的な理論を理解しましょう。自身や近親者などのこれまでの歴史を振り返りながら考えると理解の助けになります。

2	人間の成長と発達② 乳幼児期•児童期（第１章）	乳幼児期、児童期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード：乳幼児期、児童期、言語、発達課題	各時期において生じる様々な変化について、概要を理解しましょう。特に、言語発達をはじめとする諸機能の発達や、心理社会的な側面からとらえてみましょう。
3	人間の成長と発達③ 青年期から成人期（第１章）	青年期、成人期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード：青年期、成人期、自我、適応	青年期・成人期それぞれの理解に加えて、青年期から成人期への移行までを含めた、人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また、心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
4	人間の成長と発達④ 成人期から高齢期（第１章）	成人期から高齢期について、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 キーワード：成人期、高齢期、受容、適応	特に高齢期については、成人期からの移行を含めた、人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また、心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
5	加齢に伴うからだの変化の特徴① 老化と加齢に伴う生理的変化（第２章）	「加齢」と「老化」の違い、及び老化に関する主要な仮説について理解する。その上で、加齢に伴って生じる生理的変化の概要を学ぶ。 キーワード：加齢、老化、生理的変化	生涯発達の観点を持った上で、「老化」がどのようにとらえられるか考えてみましょう。また、加齢に伴って生じやすい変化を概要として総体的に理解しましょう。
6	加齢に伴うからだの変化の特徴② 身体に生じやすい変化（第２章）	身体の部位や器官（骨・関節、筋力、循環器、呼吸器、内分泌系、消化器、泌尿器、神経系、感覚器）ごとに、具体的な加齢変化や生じやすい疾患、生活への影響について理解する。 キーワード：加齢変化、疾患、生活への影響	加齢に伴って身体に生じやすくなる変化について、なるべく具体的に理解していきましょう。また、個々の生活行為から高齢期全体の過ごし方まで含めて、生活（人生）への影響についても考えましょう。
7	加齢に伴うこころの変化の特徴① 感覚•知覚、注意•反応（第３章）	感覚・知覚、及び注意・反応における加齢変化の実際を学ぶ。またそれらの変化が高齢期の生活にどのような影響を与えうるか理解する。 キーワード：感覚、知覚、注意、反応	人間の生活行為を支える感覚・知覚、及び注意・反応について、具体的にどのような変化が生じ、日常生活に影響を与えうるかについて考えましょう。高齢期を的確に理解し、必要な配慮を行うにはどうしたらよいか、という視点を持つとよいでしょう。
8	加齢に伴うこころの変化の特徴② 記憶（第３章）	記憶機能の概要について学ぶ。その上で、加齢変化や生活への影響がどのように生じているか理解する。 キーワード：記憶、知能	まず、記憶機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で、加齢変化の実際を、従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。
9	加齢に伴うこころの変化の特徴③ 知能（第３章）	知的機能の概要について学ぶ。その上で、加齢変化や生活への影響がどのように生じているか理解する。 キーワード：記憶、知能	まず、知的機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で、加齢変化の実際を、従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。

10	加齢に伴うこころの変化の特徴④ 感情、パーソナリティ（第３章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化について概要を理解する（感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を含む）。 キーワード：感情、性格、人格（パーソナリティ）	高齢期におけるこころの変化について、感情や性格、パーソナリティの観点から理解しましょう。
11	加齢に伴うこころの変化の特徴⑤ こころの健康、適応（第３章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化を踏まえて、こころの健康・心理的適応の観点から、変化や影響を与える要因について学ぶ。 キーワード：精神的健康、葛藤、適応	高齢期におけるこころの変化について、個人差を踏まえて理解しましょう。また、適応（心理的な意味での健康）に影響を与える要因について、具体的な内容と影響のしかたを考えましょう。
12	高齢期の発達と成熟① 生涯発達の考え方（第４章）	生涯発達の視点による高齢期の理解について、より詳しく学ぶ。 キーワード：生涯発達、発達段階	生涯発達心理学の考え方、及びその中での高齢期という発達段階の位置づけについて整理しましょう。またその上で、「高齢期」が人生の中でどのように位置づけられるか、改めて考えてみましょう。
13	高齢期の発達と成熟② 生涯発達と高齢者をとりまく環境（第４章）	生涯発達の視点を踏まえて、高齢期に生じる社会的な関係の変化やそれらに関係する喪失体験等について学ぶ。 キーワード：生涯発達、役割、関係、喪失体験	高齢期に生じやすい家庭・職業生活、あるいは地域生活における変化、殊に対人関係やその中での役割の変化について考えていきましょう。またそれらが高齢者の心理にどのように影響しうるか、具体的に想定してみましょう。
14	高齢期の発達と成熟③ 高齢期における適応１（第１・４章）	老いの受容、サクセスフルエイジングの考え方を中心に、高齢期の適応について概要を学ぶ。 キーワード：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティビティ、生活史、適応	老いの受容や、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジングの考え方について理解しましょう。特に、「あるべき論」と心理的過程の違いを考えながら整理してみましょう。
15	高齢期の発達と成熟④ 高齢期における適応２（第１・４章）	老いの受容、サクセスフルエイジング、生活史、セクシャリティなどの観点から、高齢期の適応について総合的に学ぶ。 キーワード：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティビティ、生活史、適応	「発達と老化の理解」のまとめとして、高齢期の適応について総合的に理解するよう努めましょう。適応が困難な場合やセクシャリティなど、普段触れにくい視点を含めて考えられるとよいでしょう。

■レポート課題

１単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
２単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのように捉えられるかについて、「生涯発達」および「心理的な適応」の観点から、これまで示されてきた考え方を整理した上であなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

教科書第 1 章第 1 節・第 6 節、第 2 章第 1 節、第 3 章第 5 節・第 6 節、及び第 4 章を中心に読み、高齢期が人間の生涯の中でどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際、「生涯発達」や心理過程としての「適応」という観点から教科書等で示されている考え方を整理した上で、自分の考えを述べるようにしてください。「適応」については、サクセスフルエイジング等の考え方をよく検討してください。具体的な例や現代社会の状況等を示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということを意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかもしくは両方を求めており、これらが記述されているかどうかが評価の基準となる。